



## 実いある研究・研修に！

下野市サポートセンターの巡回相談では、大変お世話になりました。各学校を訪問させていただき、子どもたちが真剣に学習に取り組む様子を見ることができました。先生方の日々の御指導のたまものだと感じています。ありがとうございます。

さて、6月は校内外での研究・研修が益々本格化していくことと思います。子どもたちのため、先生方のためになる、実りある研究・研修になるように、教育研究所も支援に努めて参りたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

先生方の笑顔は、子どもたちの元気につながります。梅雨入りし、疲れも出てくる時期かもしれませんが、お互いに声を掛け合いながら、体調をくずさないようお気を付けください。

### 【6月の予定】



- ※ 6月1日現在の予定です。詳細は文書でご確認ください。
- ※ 時間のみ記載の研修会の場所は、下野市役所です。
- ※ 市教育研究所主催行事 市関係行事 学校関係行事 その他

日	月	火	水	木	金	土
						1 県中学校春季体育大会(～2日)
2	3 子ども未来プロジェクト第1回生徒交流会 14:00～ 下中教研A部会	4 市教頭研修会 14:00～	5 小中一貫の日(石中区)	6 宇大附属小公開研(1日目)	7 幼小連絡協議会総会 宇大附属小公開研(2日目)	8
9 県PTA連合会総会(教育会館)	10	11 吉田西小 要請訪問 下地区自・情学級担当教員等研修会 13:30～(野木町公民館)	12	13 下地区臨時採用教員研修会 13:00～(第二中)	14 学校図書館活用研究 15:00～ 教科書展示会(～29日) 定例教育委員会 宇大附属中公開研	15 栃木県民の日
16	17 国分寺中 共同訪問	18 下地区初任者教員研修会 9:00～(栃木市藤岡小、藤岡第一中)	19 ALT研修会 14:00～	20 下野市小中学校長会(講演会)	21 学力調査結果活用研修会(小)9:00～(総教センター) 道徳教育研究会 15:00～	22 体育祭(第二中)
23	24 小・中学校英語研修(吉田東小) 13:20～	25 ゆうがお CAFÉ 17:30～	26 市定例校長会議③ 9:00～ 小中一貫の日(南河中区) S&Uラボ事業 13:30～(祇園小) 学校生活支援員(介助①)研修 15:00～	27 小中一貫の日(第二中区) 教育委員会学校訪問(石橋小)	28 学習指導主任研修会① 14:00～	29
	31					

# 情報教育推進委員会・研究会・研修会の開催

5月13日(月)、南河内第二中学校にて、情報教育推進委員会、情報教育研究会、情報教育研修会が行われました。主な内容は以下の通りです。

- ①本年度の重点課題（共通理解）
- ②各部会（情報モラル教育研究部会、けやきネット活用研究部会）の取組について（協議）
- ③プログラミングコンテストの実施方法について（協議・確認）
- ④IoTチャレンジ（MicroBitの活用）について（研修）

①では、2020年度より小学校にてプログラミング教育を完全実施するにあたり、年間指導計画等の見直しを進めていく必要があることを共通理解しました。各教科等へのプログラミング教育の導入については、今後、全教職員の共通理解が必要です。日頃の授業の中で、「ここはプログラミング的思考（※1）をしているなあ」「ここはコンピュータを用いてプログラミングすることで、より目的が達成しやすいなあ」といったことを、ぜひ各校の情報教育研究員の先生方を中心に話題にしてください。

※1 「自分が意図する一連の活動を実現するために、どのような動きの組合せが必要であり、一つ一つの動きに対応した記号を、どのように組み合わせたらいいのか、記号の組合せをどのように改善していけば、より意図した活動に近づくのか、といったことを論理的に考えていく力」



情報モラル教育研究部会



けやきネット活用研究部会



IoTチャレンジ（MicroBitの活用）研修

## プログラミング教育の充実に向けて

新しい小学校学習指導要領の総則には、「子供たちが将来どのような職業に就くとしても時代を越えて普遍的に求められる『プログラミング的思考』を育むため、小学校においては、児童がプログラミングを体験しながら、コンピュータに意図した処理を行わせるために必要な論理的思考力を身に付けるための学習活動を計画的に実施すること」が示されました。その中では、プログラミングの授業として単体で行うのではなく、「各教科等において」行うものとされています。

本市で平成29（2017）年度より先行実施しているPepperを活用したプログラミング学習は、「総合的な学習の時間」におけるプログラミング学習です。今後は、「教育課程全体を見渡し、プログラミングを実施する単元を位置付けていく学年や教科等を決定していく」必要があります。算数の「正多角形の作図」や理科の「電気の性質や働き」等いくつかの例が示されたものの、よりよい教材を先生方とともに研究していくこととなります。低学年においてもコンピュータを用いない（アンプラグド）プログラミング学習も可能です。小学校で培ったプログラミング的思考を基に、中学校技術科において双方向性のあるコンテンツによるプログラミングを行います。

一方で、コンピュータはあくまで道具であり手段であることも忘れてはいけません。「ああ、これはコンピュータに任せた方が正確だし効率がいいな」といった「よさ」を実感させながら、目的達成のための手段としてプログラミングを活用できる子供たちを育成していきましょう。

プログラミング学習を充実させるための第一歩として、何より先生方が楽しみながらプログラミングを体験してみることが大切だと言われています。以下の参考・引用文献等をご覧ください、ぜひ一度試しに遊んでみてください。

<参考・引用文献>

- ①小学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編、文部科学省、2018
- ②小学校プログラミング教育の手引（第二版）、文部科学省、2018
- ③プログラミング教育 はじめの一步、栃木県総合教育センター、2018

特に③については、昨年度末に皆様に配付されました。栃木県総合教育センターのイメージキャラクター「アン」ちゃんがとても分かりやすく説明してくれているので、ぜひ一読ください。

②③については、栃木県総合教育センターの以下のサイトからアクセスできます。

[www.tochigi-edu.ed.jp/center/cyosa/cyosakenkyu/h30\\_programming/](http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/cyosa/cyosakenkyu/h30_programming/)

